

# 監修のことば

薬剤師業務は、医薬分業開始当時の調剤のみであった第1世代からはじまり、現在は医療の担い手として、患者へのカウンセリングやコンサルテーションなどの業務が加わり、多岐にわたる業務を担当する第5世代へと進化している。現在、社会から求められる薬剤師へのニーズは、高齢化社会の進展、医療の高度化、および地域包括ケアシステムの推進により、専門性や業務スキルなど、より高くなっている。具体的には、「訪問薬剤師」、「専門薬剤師・認定薬剤師」、「かかりつけ薬剤師」の重要性が増してきている。一方で、長期的な薬剤師の需給については、AIの活用などによる効率化で、対物業務を中心に非薬剤師や機械に代替されはじめており、今後は専門性の向上や差別化がより一層高まり、薬剤師過多の時代到来が予想される。これらの背景から、今後薬剤師に求められる能力は、処方せん鑑査、処方提案、コミュニケーション、多職種連携、専門性などと広く、深いものとなりつつある。

そこで本書では、調剤実務での基本となる処方せん鑑査、処方提案につながる計算能力を高めるよう、医療現場での実体験を基に作成したドリル形式の問題集とした。液剤、散剤などの調剤のみならず、輸液の浸透圧、電解質濃度、投与速度、抗がん剤投与などの鑑査時に必要となる計算方法や理論について網羅的に記載し、実務での確認にも活用できるものになっている。分野ごとに「要点の整理」、「計算のコツ」に示された内容を参考に例題、練習問題に取り組み、詳しく示された解説を通して、より理解を深める構成となっている。また、最後に腕試し問題として、さらに実践的な課題をあげたので、薬学生の国家試験対策だけでなく、新人薬剤師や現役薬剤師の学び直しにも活用できるものとした。

厚生労働省がおこなった薬剤師の需給推計では、2020年から2045年までの間に、2万4千人～12万6千人の薬剤師が過剰になるとの見通しが示されている。本書を通して実践力を高めることで、優れた薬剤師をめざし、諸先輩方が築き、広げてきた薬剤師の職能、職域をさらに拡大させる、次世代を担う、優秀な薬剤師になることを祈念します。

2025年12月

東京薬科大学 薬学部

堀 祐輔